

午前9時00分 開会

【山田委員長】 委員の出席状況について報告する。全員出席である。

議 長 挨 拶

1 令和7年第1回臨時会の運営について

(1) 付議事件について(資料1)

【山田委員長】 市側に説明を求める。

※総務部長から、資料1に基づき説明。

【山田委員長】 説明のとおりでどうか。

全 員 了 承

【山田委員長】 これで市側職員は退席する。

(総務部長、総務課長 退席)

(2) 会期日程について(資料2)

【山田委員長】 事務局に説明を求める。

【事務局長】 資料2を御覧いただきたい。令和7年第1回臨時会の会期日程は、本日、3月28日(金)の1日を予定しており、開会時刻は、この後、午前10時からを予定している。

【山田委員長】 説明のとおりでどうか。

全 員 了 承

【山田委員長】 それでは、そのようにお願いします。

(3) 本日の議事進行について(資料3)

【山田委員長】 事務局に説明を求める。

【議事係長】 資料3を御覧いただきたい。本日の議事進行について、時系列にて説明する。

※資料3の1から4を朗読

【議事係長】 資料3の3番目の委員会審査についてであるが、当初予算の各事業については、既にさきの3月定例会時の委員会で審査されていることから、今臨時会での委員会審査については、3月定例会で否決された当初予算から、変更した事業についての審査をお願いしたいとの議長からの依頼である。このことから、所管の事業に変更のある文教市民経済常任委員会、厚生常任委員会と、歳入に変更があり総括質疑のある総務常任委員会に付託される見込みである。次に、資料3の、4番目の委員長報告について、通常は、委員長が会議録を確認の上委員長報告を作成しているが、本日は3つの委員会の開催が急遽決定される見込みであり、時間的に詳細な会議録の作成が困難であることから、

令和4年11月2日に開催した臨時会での委員会と同様、委員長報告については、質疑答弁の部分は割愛させていただき、討論があった場合には簡潔な内容と、審査結果を報告する対応でお願いしたい。また、会議録について、通常は速記者が委員会に入り作成しているが、委託業者に確認を行ったところ、急な依頼であることから速記者の派遣は対応できないとの回答であった。このため、今回の会議録は、録音音声データによる全文反訳とならざるを得ない。発言者に対する委員長の指名を含め、音源がしっかり取れていないと反訳できないため、議員各位におかれては、御発言の際には、委員長の指名を受けてから、マイクに近づいて、はっきりと御発声くださるようお願いする。通常とは違う形となるが、会議録は後日作成するので、委員会中の質疑答弁について市民が内容を確認できることは、通常どおり変わらないものである。以上について、御承知おきいただくとともに、所属会派の議員へ周知をお願いするものである。

【山田委員長】 事務局から説明した内容について、何かあるか。

【石田委員】 午前10時から本会議開会と時間が空くが、何か間にあるのか。

【議事係長】 本委員会が前段で今開催されており、事前に市民を含めて周知の必要があることから時間が読めるというところで10時に設定された。

【山田委員長】 事務局から説明した内容のとおりでどうか。

全 員 了 承

【山田委員長】 それでは、そのようをお願いする。

2 その他

(1) 市長の挨拶について

【山田委員長】 事務局に説明を求める。

【議事係長】 この後の本会議の議事終了後に、市長から年度末の挨拶を行わせていただきたい旨の申入れがあったので、あらかじめ御承知おき願うものである。

【山田委員長】 説明のとおりでどうか。

全 員 了 承

【山田委員長】 それでは、そのようをお願いする。

(2) その他

【山田委員長】 その他について、何かあるか。

【井上副委員長】 3月24日の本会議、最終日の討論の中で、明らかに事実と違うことを、議場で発言された議員がいたことの確認が取れた。さらに言えば、その発言を根拠に自民党・新政クラブを名指しで批判するような内容がSNS上で拡散されている状況である。さらに、その議員が発言したという根拠でまたさらに別の議員が拡散させているという看過できない状況が起きているので、問題提起させていただきたい。

【山田委員長】 皆さんよろしいか。

全 員 了 承

【井上副委員長】 今既に、本会議の録画動画が見られる状態になっているので、その部分の文字起こしをしたのでお伝えする。「大和駅周辺のにぎわい創出のために、プロムナード等を活用したイベント、仮称漫画・アニメイベントに予算が403万円ほど計上されていますが、そこに対しての修正を挙げないのはいかなる理由からなのでしょう。自民党・新政クラブから提案された事業だったと記憶しております。」といった内容である議員が発言をされているが、我が会派にそういった提案をした事実はない。それに類するようなものとすれば、去年12月の私の一般質問で、財政が厳しい中で予算を切っていくだけではなく稼ぐ政策を提案させていただいたときに、シリウス改造計画とうたって発言した。そこで、ネーミングライツ計画ということでネーミングライツを導入して、例えばバンダイやソニーなどと、シリウスの中にアンテナショップを造り盛り上げていきたいと思いますといった趣旨の発言はしたが、こういったイベントを開催する提案はしていない。なお、この会議録を調べていくうちに、令和6年3月定例会の北島議員の一般質問において、次のような記録があったことが明らかになった。「古谷田市長は所信表明、施政方針などにおいてエンターテインメントを活用して支援していくという姿勢を打ち出していっています。イベントの開催について見解を伺いたい。」という北島議員の質問に対し、古谷田市長は、「地域につながるイベントをとの質問がありました。私は、令和5年6月の所信表明において、エンターテインメントをキーワードとした新たなイベントの開催により、市民が元気に楽しく交流することで地域を活性化していくことを述べさせていただきました。」というように古谷田市長が去年の3月の時点で、既にそういったエンターテインメントを活用してイベントをしたいという意思を自ら示していたことが判明した。こういった記録からも、北島委員が指摘したイベントを自民党・新政クラブが提案したという発言は、全く事実ではない。それが今あたかも、誹謗中傷的に捉えられかねない状況になっている。本件について皆さんの御意見をいただきたいと思い提案させていただいた。

【北島委員】 お騒がせしてしまい、本当に申し訳ないと思う。自民党・新政クラブが提案と発言した経緯に至ったものに関して、エンターテインメントと市長はおっしゃっていたが、具体的には発信していなかった。令和6年第4回定例会の12月13日に、井上議員が一般質問されたときの内容として、先ほどおっしゃったとおり、ネーミングライツのお話をされていて、その後「シリウスの前の広場にお台場にあったような等身大のガンダムやマリオやキティちゃんたちがお迎えして、建物の中にもそこでしか手に入らない最新のゲームやレアなもの、世界中のオタクたち、私や山本光宏前議員、あと北島さんもそうだとさっき言っていましたけれども、アニメイトの誘致やご当地やまとキティ等を売れば、年間1500万人の全世界のオタクたちがバンダイ・ソニー・マリオ・ハローキティ・シリウスホールを目指し、そして、そこからシャトルバス……」等々つながるのだが、やはりネーミングライツの、このバンダイ・ソニー・マリオ・ハローキティ・シリウスホールというのはどうでしょう、で発言が終わっていたらそのネーミングライツ導入の提案の話で済んでいたと思うが、その後私の名前も言っただき、こういったイベントに対して私も前向きだったため、そうやってガンダム呼べたらよいとか、キティちゃん売れたらよいな、そういったイベント開きたいなという認識の下でいたので、井上議員が提案していただいたイベントだと私は考えていた。

【福本委員】 考えていたということは、それはご自身の勘違いでしたということでしょうか。

【北島委員】 勘違いとおっしゃるのであれば、自分の中の意見としてはこのように考えていたので、これが全く違うものだとおっしゃるのであれば、それは私の勘違いだったかもしれない。ただ、それ

に関して、この文章を読んで、どう受け取ったかは、これは勘違いというか、そのように受け取ってしまわざるを得ない文章と私は考えている。

【福本委員】 今、北島委員から、井上議員の一般質問についても触れられていたが、井上議員が一般質問の中で、私が提案するのはと言った後に、ちゃんと言葉がその後にあるはずである。今、北島委員がおっしゃったのは、そのずいぶん下のところから読み上げられていて、それをもう一度はつきり言っていたきたいのだが、井上議員が提案したのは何だと書いてあるか。

【北島委員】 「ネーミングライツの導入で」と書いてある。

【福本委員】 その前である。投資を生み出す政策という部分である。

【北島委員】 「お金を生み出すための投資的な政策はぜひとも積極的に拡大していただきたいと考えています」と書いてある。

【福本委員】 それが井上議員の提案である。

【石田委員】 今、二つの意見を伺って、明確に提案をしたのはネーミングライツというのは断定できと思う。従前からこのときだけではなく井上議員はバンダイミュージアムとか、ドリーミーな提案をされていることも頭の中でつながっている状態で、提案したと認識をした議員がいたとしても、無理はないと私は感じた。ただ、井上副委員長本人から提案していないと、はっきりこの場で表明があったわけであるから、それは提案ではなく、それに類する発言があったという程度でとどめるべきだったと思う。ここでどちらがよい悪いとジャッジをすることは、客観的に見ていて難しいと感じる。お互いに配慮をしていく必要があると感じた。

【赤嶺委員】 ジャッジしてほしい。なぜかという、これは修正動議の討論で言っていることだからである。一般会計予算の修正要求で、市民の血税だと、一部は削れと言っておきながら、ここからが誤解であるが、なぜ、あなたたちが提案したアニメイベントは削らないのかと北島委員は言っているわけである。それが討論の内容として正式に記録され、それを引用してSNSで拡散されているわけである。それを見た人は、何だよ自民党・新政クラブ、自分たちで提案したアニメイベントは削らないのに、他のイベントは削るのかと誤解されかねない。この状況について、私は早く手を打つ必要があると思う。ここで、北島委員に質問したい。今回の討論を作成するにあたり、事務局の見解や、私たちの会派の誰かに事前に確認等をされたか。

【北島委員】 事務局の見解とは、どのような部分か。

【赤嶺委員】 このような討論を行いたいが、これは事実として間違いないかと事務局に確認をしたり、私たちの会派に、自民党・新政クラブから提案があったと記憶しているが間違いないかという確認をしたか。

【北島委員】 申し訳ない、怠っていた。

【布瀬委員】 今、SNSの問題点が様々に出てきている。北島委員にお聞きするが、例えば今、赤嶺委員が自民党・新政クラブの誰かに確認したかと聞いていたが、自民党・新政クラブの方にそういったことの確認をされたのか。本会議場で発言をする際に、相手があることであって、それに対して何か物を申すときは、正確性の高いことを発言するべきだと思う。北島委員にお聞きしたいことの一つは、自民党・新政クラブに確認したのかということ、それからその正確性の問題で、そういったところに配慮をしていないのか、どうお考えなのか二点お伺いする。

【北島委員】 自民党・新政クラブには申し訳ない、確認をしていない。私が会議録を読んで、このように思い込んでしまった。正確性においても、この前後の文を確認している中で、ここだけではなく井上議員の12月の一般質問を見ていく中で、前向きに考えていて提案しているという認識に至っ

てしまった。最終的な確認を怠ってしまった部分は私の落ち度だと考えている。

【布瀬委員】 併せて、行政側に、このイベントが開催されるようになった経緯の確認はされているのか。

【北島委員】 文教市民経済常任委員会の中でそのような話があり、手元に資料はないが、イベント観光課長が、花博、その後のテーマパークという話をされていた中で、井上議員は、国際園芸博覧会やその後のテーマパークを見据えたという話をされていたので一連の話なんだと私は認識した。

【福本委員】 今の北島委員のお話では、井上議員と相手の課長の答弁がつながるようには感じられなかった。ご自身勝手にそのように思い込んだということではよろしいか。

【石田委員】 北島委員が一つ配慮を怠ったと思っている。私はそのように受け取ったと言えよかっただと思う。それを、断定的に言ったことに関しては、配慮が必要だったと思うが、一般的に聞いて、アニメキャラクター、いわゆるガンダムを置くとか、そういうイベントを提案していたと受け取る議員がいてもおかしくない発言があったことも事実なので、そういうふうにしたということは、私は議員の言っている範疇ではないかと思う。それに対して反論があるなら、こうして公の場で言うていく方がいいと思う。差別発言や明らかに相手を誹謗中傷するような言葉というレベルではないので、発言の取消しをするしないということではなく、認識の幅の中で起こっていることだと私は思う。

【山田委員長】 先ほどの北島委員が、討論の中でおっしゃった文章を、もう一度確認させていただいたところ、「自民党・新政クラブから提案された事業だったと記憶しております。」と、断定しているわけではない。

【福本委員】 ということは、委員長は、記憶をしていればとさえ言えば、事実と異なることであっても言ってもよいということではよろしいのか。

【布瀬委員】 私も福本委員の様に思う。議員が本会議場で発言すること、それからSNSに発信することは、かなり配慮して書かなくてはいけない中で、今、北島委員からいろいろお聞きした中でも、どこにも確認をしていなくて、ただ会議録や委員会での発言を参照し、自分の思いだけで発信しているように思えるがこれはよいのか、問題だと思う。

【石田委員】 会議録は確認していると思う。議員それぞれが、捉え方に応じていろいろな話をしていくので、それが正しい発言というのはないわけである。明らかに事実と反するようなことがあった場合には、違うということをこうして指摘を受けることもあり、それはしっかりと受け止めるべきだと思うが、それも含めて私は言論だと思っている。

【赤嶺委員】 発言に至った経緯は、先ほど布瀬委員が指摘されたとおりだと思う。今、その発言があった本会議の直後の議運であるから、その経緯についてここで確認するのは当然のことである。これが、議会の中で留まるレベルの話であれば、個別に話して、終わるかもしれないが、今それが引用され、SNSを通して広がっている。しかも予算に修正動議を出して予算が否決されたというニュースとともに広がっている。あたかも私たちが適切に予算の修正動議を出していないと思われるような内容になっている。それが誹謗中傷に当たる可能性があることは真剣に考えるべきではないのか。そもそも、議員の発言や討論は重いものだと私は思っているの、他の会派が提案したものに対して、それに反対する理由を記憶のみで述べることは、私は慎重に行う必要があったと思う。

【小倉委員】 私も今回本件を知ったきっかけがSNSであった。井上代表に確認したら提案していないと確認できた。まず、北島委員に聞きたいが、「このイベントに予算が403万円ほど計上されていますが」と発言しているが、これはどこで言っていたことなのか。

【北島委員】 予算はイベント観光課に確認し、どれぐらい予算を取っているのか確認した。

【小倉委員】 403万円を、イベント観光課に確認を取ったとのことであるが、我々がそのような計画を提案した事実は全くない。あくまでも今回は、井上議員の以前の発言に関する会議録を見ると、お金を稼ぐということで、ネーミングライツで逆にお金を創出しようということを発言している。我々が会派として提案し、こういうイベントを行って403万円のイベントを計上するなんていうことは全くありえないことである。ここ数日間でいろんな方々とお会いした中で、自民党・新政クラブは何やってんだと言われた。お前たちが考えていることには目もくれず、他のことでお金を削減していると言われ私はショックであった。SNSの影響力はものすごいので、即刻北島委員は、間違いを確認が取れたのなら、今度は訂正のSNS発信をお願いしたいと思う。

【布瀬委員】 市民がどう受け取るのかを考えて発信をしていただきたい。誤解を受けるような書き方は特に問題だと思う。石田委員は言論の自由をとおっしゃっているが、そうではない。これは相手方があることであって、自分の思いの発信だけなら全然問題ないと思うが、相手があることで、しかも自分の考えと違う相手のことを書くときには、かなり慎重に確認した上でやっていただきたいと思う。北島委員だけではなく、ある別の議員のSNSを私も確認したが、神奈川ネットワーク運動の名前も記載されていた。それも誤解であり違うということをその御本人に私が訂正しているにもかかわらず、SNSに流しているという状況もある。そういった中で、SNSや本会議場での発言に関しては、かなり慎重になっていただきたい。市民がどう受け取るか誤解がないように検討して考えてやっていただきたいし、書いていただきたいと思う。

【星野委員】 恐らく、この問題の本質として、認識がいろいろな議員が甘いということが一つあり、今回、歴史的にほとんどないような否決ということが起きた。この意味合いの重さを理解されてない議員が多いのではないかと。市長の予算案を否決するということは、選挙で選ばれた市長を議会が否決するということである。これは市民に対してもノーを突きつける意味合いも含まれる。これは非常に重要な案件であり、過去にないようなことを自民党・新政クラブも覚悟を決めてやっていると思う。その中で今までどおり引用されたら問題になるのは当然である。各議員の議員人生もかかっているかもしれないような重大な案件であるから問題になるのは当然であるし、私は北島委員や自民党・新政クラブの肩を持つつもりはないが、これはとてつもなく重要な話であり、今までと同じような感覚では議論できない問題であるということを北島委員は認識すべきである。

【福本委員】 一連の議論の中で、北島委員の討論の文言を、読み上げて整理してきているわけであるが、気になるのが、それを受けても、なお北島委員からこの発言は間違っていたという発言がないことに違和感がある。御本人がいまだに、自分は間違ったことを言っていないと思い込んでいるのではないかと思う。この部分をまず確認させていただきたい。北島委員はこの討論のこの部分の文章に関して、まだ正しいと思っているのか、間違っていたと認識したか。

【北島委員】 虚偽をするつもりは全くなかった。先ほどからもお伝えしているとおり、配慮を欠く発言をしてしまった部分を謝罪したいと思う。ただ、勘違いという部分に関して、先ほど布瀬委員もおっしゃっていたが、議場で発言するに当たって確かなことを伝えていかなくてはいけないという部分で、議場での発言を確認した上で自分が受け取ってしまっていた部分もあるので、ただ単純な勘違いで済むものでもないとは考えている。

【福本委員】 私が伺ったことに答えていただけなかったのもう一度確認するが、北島委員が討論の中で、自民党・新政クラブが言っていたと記憶していると発言した部分が正しかったのか間違っていたのか教えていただきたい。

午前 9時37分 休憩

午前10時03分 再開

【北島委員】 3月24日の討論の中で、私が12月の井上議員の一般質問を受けて、勘違いによる発言をした部分に関して、謝罪を申し上げたい。そしてまた、配慮に欠ける発言をして申し訳なかった。SNS等に関して、自分の文章に関してはもう既に修正済みではあるが、同じような内容のSNSを挙げている別の議員にも個別に私からお話させていただき、修正を依頼させていただく。

【福本委員】 では、発言は、間違っていたということによろしいか。

【北島委員】 虚偽を発言するつもりはなかったが、間違えた発言をしてしまった。

【福本委員】 承知した。

【井上副委員長】 会議録上、議場で言い切られてしまっている状態であるので、今回の臨時会の中で訂正いただきたいかがか。

【北島委員】 今回の臨時会でも改めて、訂正させていただきたいと思う。並びに、今回自民党・新政クラブに対して大変な御迷惑をかけ、本当に申し訳ない。改めてSNSのほうでも対処させていただく。

【布瀬委員】 自民党・新政クラブのことは、今これで北島委員による間違いだったということである。加えて、この同じSNS上には神奈川ネットワーク運動の名前も載っている。その上で神奈川ネットワーク運動としては言っていないことがまだSNS上に掲載されているが、それに対しても修正していただきたいが、いかがか。

【北島委員】 もちろんその点も、先ほどお話しした中で、私の勘違いであることが分かったので、改めてSNSの訂正をさせていただく。

【布瀬委員】 ぜひ早急に行っていただきたいと思う。加えて、このSNSの情報は別の議員も発信している。それが、町田零二副議長である。令和7年3月第1回定例会の最終日前に、こういった事実があるのではないかとということで、神奈川ネットワーク運動の提案でSUP事業というものが修正動議の中に加えられたということなのかとの確認が、副議長からあったので、それは事実ではないと私からお伝えした。しかし、議会が終わって予算が否決された後、SNSには副議長が発信している中に、神奈川ネットワーク運動の提案によるものと、誤解を受けるような発信がある。この問題点について、副議長に今、本委員会に出席していただきたいかがか。

【山田委員長】 他の議員を本委員会に呼ぶことが可能かどうか、事務局に確認する。

【議事係長】 会議規則の第116条、委員外議員の発言という条であるが「委員会は、審査又は調査中の事件について、必要があると認めるときは、委員でない議員に対し、その出席を求めて説明又は意見を聴くことができる。」という条文があるので、出席を求めて説明または意見を聴くことはできるということになっている。

【布瀬委員】 ぜひ当事者である町田零二副議長に出席していただきたいと思うが、委員長いかがか。

【山田委員長】 町田零二副議長に対して本委員会への出席を求めることについて、皆さんいかがか。

全 員 了 承

午前10時07分 休憩

午前１０時１０分 再開

町田（零）副議長入室

【布瀬委員】 令和７年第１回定例会本会議最終日の予算採決をする前に、町田零二副議長から、修正動議についての問いかけがあった。その中で神奈川ネットワーク運動として、海外交流のＳＵＰ事業を加えれば修正動議に賛成するのかなというような質問があり、神奈川ネットワーク運動としてはそういったことを自民党・新政クラブに提案したことはないと否定した。しかし最終日の予算採決が終わった後に町田零二副議長のＳＮＳ上で、井上代表から神奈川ネットワーク運動の賛成を得るためにＳＵＰ事業を追加した修正動議という感じの記載があったのだが、これに対して町田零二副議長は、副議長としての立場もあるのに、なぜ情報をＳＮＳ上に載せたのかまずお聞きしたい。

【町田（零）副議長】 質問の経緯が分からない。なぜそれを書いたかを言えばよいのか。

【布瀬委員】 事実ではないと私が否定した内容を、なぜＳＮＳ上に載せたのかということと、神奈川ネットワーク運動が言ったとは書いていないと、後日質問したときもおっしゃっていたが、ＳＮＳ上にこういった情報を流すということで市民に誤解を招くと考えなかったのか。どのようにお考えかお聞かせいただきたい。

【町田（零）副議長】 最初に聞かれた質問と変わっている。どこまで答えればよいのか分からないが、２個目の質問にお答えする。何がまず誤解なのかが分からない。なぜ書いたかというと、立場もあり客観的に事実を羅列していかないと、自民党・新政クラブがどうしてＳＵＰ事業を挙げたのかが分からない。だから、自民党・新政クラブは、その修正動議を通そうと思って最大限最後まで努力をしたが、賛成少数で否決されたという事実を書いているだけで、特に何か誤解を与えようということはない。また神奈川ネットワーク運動とのそのやり取りに関して、神奈川ネットワーク運動からＳＵＰ事業を削ることを提案していることも書かれていない。それはあくまでも、自民党・新政クラブの努力の中で一つでも多くの会派の賛同を得るためにＳＵＰ事業をそれに加えたということである。これに対して神奈川ネットワーク運動がそのことを受けとめて賛成したのか、それではなくて賛成したのかは私には分からないので、その事実だけを羅列した。

【布瀬委員】 それでは町田零二副議長のＳＮＳの中で、神奈川ネットワーク運動というところをどのように記載されていたかを、もう一度言っていただけか。

傍聴人１名を許可

午前１０時１５分 休憩

午前１０時１６分 再開

【町田（零）副議長】 本委員会には、携帯電話、スマホの持込みが禁止されているため、今手元にないため言えない。

【布瀬委員】 ＳＵＰ事業がなぜ加わったのかということは自民党・新政クラブに確認されたのか。

【町田（零）副議長】 ＳＮＳで書くときに、あった事象について、それに関わる人たち全員に確認を取らなければ書くことができないというわけではないと思う。自民党・新政クラブに、ＳＮＳに書く際に確認を取ったかどうかということではなくて、木村議員と私で、井上代表からぜひ賛成してほ

しいという話を受けたときに、神奈川ネットワーク運動の賛成を得るためにＳＵＰ事業も削除することにしたという説明を受けていたので、それをそのまま事実として書いている。

【布瀬委員】 今、副議長はこれにおっしゃっているが、自民党・新政クラブはどのように説明されたのかお聞かせいただきたい。

【井上副委員長】 元々私が提案したのは三つの事業の削除であった。それでこの三つの事業の削除、ゼロか１かというような判断ではなかなか合意が取れないとなつたので、一つの事業は減額、例えば、うまいもの市であれば、うまいもの市が必要だという会派であればゼロではなくて、減額というところで折れられないかとか。エンジョイスポーツ事業もパイロット校ならやったほうがよいのではという意見もあった。ＳＵＰ事業に関しては、あらゆるところでＳＵＰって一体何なのだとの御意見をいただいていたので、ＳＵＰ事業を削れば、修正動議に賛同してくれるところも増えるのではないかと示した。

【布瀬委員】 私は先ほどの町田零二副議長の発言は、非常に問題があると思う。今まで北島委員のことについて議論してきた内容を否定するものと思っている。自分の意見だけを書くときには特に問題ないにしても、相手があり、相手に悪い印象を与えるような内容を書くときには慎重になるべきだということは、さきほど意見が統一されたと思っていた。さらに、書くときには相手にできるだけ確認をして確かな情報を書いていくことが大事だということが今、共通認識されたと思っていたが、町田零二副議長はＳＮＳに書くときに、いちいち一つ一つを関わる人たちに確認する必要があるとは思わないとおっしゃった今の発言は、かなり問題があると思う。そういった中で、井上代表がどういった提案をされたのか、私はその場にいなかったため分からないが、その後に確認された際に、神奈川ネットワーク運動としては、そういった提案はしていないと答えた。しかし、ＳＮＳ上では、井上代表からこういうふうに提案されたという書き方で、神奈川ネットワーク運動という名前が載っていたことで、市民がどのように受け止めるかを考えると、神奈川ネットワーク運動が提案したというふうにしかな受け止められないような状況で、ましてや私も周りからそのように言われたところである。そういったことを含めて、副議長としてはＳＮＳ発信についてどのようにお考えか。確かな情報を発言していかなければいけないという、ここまでの私たちの議論を否定するのか。

【町田（零）副議長】 委員外議員で出席していたわけではないので、つまびらかに皆さんの話を一から最後まで聞いていたわけではないので、そこにそごがあったら申し訳ないと思う。ＳＮＳの発信に関しては、ほかの議員もしていると思う。ほかの議員も、発信するときに、どこどこの会派がこう言っていたとか、反対した会派、賛成した会派それぞれの立場によって自分たちの正当性を示すために相手のことを書くことがあるが、今後それは全て名前を出した人に確認しなければいけないということになるので、それは一般報道機関の例に準拠しても、あり得ないことだと私は思う。ただ、そういうことが必要だという布瀬委員の意見はよく分かった。また、確かな情報をＳＮＳで載せるべきだというのは、私も賛同する。確かかどうか分からない情報がたくさんネットに流れているから、メディアリテラシー教育が必要だということを、私はかなり早い時期からこの議会でも提案していた。そのため今回も、主観を交えず、事実のみを書くようにした。一方で、あまりにも客観的すぎるので、お前の意見がないというようなお叱りも受けている書きぶりであった。神奈川ネットワーク運動が、ＳＵＰ事業を削ることを提案したようには私は書いていないはずなので、そこは御理解いただきたい。

【布瀬委員】 私は、委員会もしくは議場で会議録のように残るような場で発言したことに関して確認を取ってほしいと言っているわけではない。修正動議に関しては、自民党・新政クラブの提案だが、自民党・新政クラブが提案するときにもこういった内容だということを自身で討論しているから、そ

れに対しては問題ない。そこに神奈川ネットワーク運動は出てきていないと思うが、なぜ、あえて神奈川ネットワーク運動という名前をSNS上で出したのか。

【町田（零）副議長】 自民党・新政クラブの修正動議の提案があったからである。SNSにもおそらくそのように書かれていると思うが、木村議員と私宛てに、井上代表が協力をお願いしますと来られたときに、そのように説明されたからそのとおり書いただけである。したがって何か意図があったわけではない。

【吉澤委員】 公明党も、井上委員からそういった話を聞いている。

【布瀬委員】 それは、この会議録が残る場で言ったことではないということか。その中で、一つこのように提案されたが、神奈川ネットワーク運動としてはどうかと聞かれ、神奈川ネットワーク運動はそういう提案をしていないと私が否定をした事実がある。提案を受けたことは分かるが、その後に神奈川ネットワーク運動としてはそうではないと否定をした事実があった上でもさらにSNSに載せるとはどういうことか。副議長という立場で発信をすることの重みは考えなかったのか。

【町田（零）副議長】 この議案が出てきて、賛成、反対で悩んでいる方々がいて、その思いを全部私のSNSで書くと、その思いについてそんなこと思っていないと批判が出そうなので、事実のみを書かざるを得なかった。それ以上は言えないので、布瀬委員と思いは違ったかもしれないが、事実そういう交渉があったけれども自民党・新政クラブの修正提案は残念ながら実らなかったということ以上のことは書いてないし、そんなことを言い出したら日本共産党については名前も出していなかったし、虹の会については、会派としてどういう会派なのか説明も難しかったため、二つの会派については例年当初予算を否決している会派とくくったりした。それを、申し訳ないなと思いながら書いているが、ただそのように書かざるを得ないものではないかと思っている。

【布瀬委員】 私はこれは危険なことだと思っている。先ほどは北島委員が、確認ができていない状態で発言してしまったことを訂正することになったのに、この件は確認をして本人が否定しているにもかかわらずそれをSNS上に載せて、それが事実であると断言しているもので、問題だと思う。まさに今議会改革実行委員会でも政治倫理に関する規則をつくっていくべきだと議論されているところであり、そういった関係でも今後SNSで発信していく上で、市民がどういった受け取りをするか、誤解を招かないかということを、特に相手のことを書くときには相手に聞き取りをし、確認した上で検討していただきたいと思う。その配慮が本当に必要だと思っている。SNSを発信すると、それはいろいろなことに拡散されていく。そのため誤解を招かない書き方をすることを、議員はそれぞれ気をつけていかなくてはいけないと申し上げる。

【福本委員】 先ほどから町田零二副議長は事実とか、客観的という言葉が使われていた。実際3月25日の昼にアップされたSNSには、最後のところで「政治家以外の人々がSNSで他の人を攻撃して誹謗中傷のやり合いになっているのをよく見かけますが、言論の府である議会人にとっては、場外乱闘に当たる行為ですので、そうならないように、極力客観的に、かつ、事実のみを書いてみました。」とある。まさしく副議長として、議会に対して中立性・公平性が担保されなくてはいけない極めて立場の重い役職であるので、本当にそうだと感じたが、この部分に関して間違いないか。

【町田（零）副議長】 それは私が記載したことで間違いない。

【福本委員】 その上で、その上段の部分であるが、『「自民党・新政クラブが提案した新たなイベント（大和駅東側プロムナードやシリウスでのアニメや漫画、ゲームなどのイベント）の開催には約403万円を計上しているのに、それは削除しないのか、自分たちのやりたいことはOK、市民の声を受けて、市長がやろうとすることはダメということはおかしい。」などの発言が相次ぎ』というふうに

書かれているが、自民党・新政クラブが提案した新たなイベントという発言はあったか。事実を書かれているとのことだが教えていただきたい。

【町田（零）副議長】 その質問に答える前に、先ほど布瀬委員がまとめられたことに対して意見を申し上げる。完全におっしゃっていることが違って、それを井上副委員長がおっしゃるのであれば分かる。井上副委員長が、神奈川ネットワーク運動が賛成するからSUP事業を載せたと言っていないのに書いたと言うのであれば分かる。神奈川ネットワーク運動が言ったことと言っていないことについては、言ったことも言っていないことについても一切書かれてない。それなのに、違うことを書かれたというのはおかしくて、だから事実しか書いていないと言っているのに、そのことについて何かこちらに責めがあるように言われるのは非常に困るので、そこは御理解いただければと思う。続けて、福本委員への回答だが、全部ではないが、先ほどからの話を伺っていて、最終的に北島委員があれば間違いだったと認めたので、私は北島委員の討論を要約してそこに載せたものなので、そこについては北島委員の訂正や発言を待ってそのとおりに自分のSNSも修正したいと思う。

【福本委員】 そうしていただけるとありがたいが、これを書いたのは3月25日の12時である。北島委員は議場で「記憶している」と言った。ただ、副議長は「自民党・新政クラブが提案した新たなイベント」と言い切られていて、似て非なるものである。客観的な副議長らしくないと思ったのだが、この部分は間違っていないのか。

【町田（零）副議長】 まさに3月25日の12時にアップされているものであるので、聞き取りによる意識である。したがって、多分北島委員は討論の中でOKとかNGなどは言っていないと思う。ただ、読む方に分かりやすいように議論をまとめることはある。北島委員が、それは自民党・新政クラブが言ったと思ったと先ほど発言されたが、私が聞き取ったときは、根拠になる会議録もないため、「自民党・新政クラブの提案ですね」と言ったと思った。だから、そういうふうに書いていたので、適切な形で北島委員がこの後処理をされるであろうから、それに合わせて直していきたいと思う。

【福本委員】 先ほどから北島委員についてお話されていたときに、それは当該会派に確認をしたのかというやり取りがあったと思うが、全く同じことが副議長に対しても言えるものであり、そう書くのであれば、本来そこまで確認するべきであったと思う。ここまで言い切られてしまうと、自民党・新政クラブはいわれのない誹謗中傷を受けてしまいかねない。ここは本当に中立性・公平性を担保しなくてはいけない副議長としてやってはいけないことをやっていると思うがいかがか。

【町田（零）副議長】 御意見として受け止める。

【福本委員】 重ねて、副議長のブログの中には、修正案に対する反対討論がいくつか紹介されている。極力客観的かつ事実のみ書きましたと書いてある割には、当日は賛成討論もあったのに反対討論ばかり挙げている。星野議員や布瀬議員の賛成討論には一切触れずに、なぜ反対討論ばかりをあげたらって客観的事実と書いているのか。非常に違和感がある。

【町田（零）副議長】 私がSNSでどの意見を載せるかは私の自由だと思う。私がどこまで書いたら許されるかということや誰に確認しなければいけないということはないと思うし表現の自由がある。それに対して何かいろいろ言い始めると、先ほど布瀬委員にも話したが、全員の意見を載せることはできない。私のブログを読みそうな人たちは、なぜその当初予算が否決されるに至ったかというところに興味があると思う。そのためそれを書いている。私の主観を交えて、自民党・新政クラブがこんなことやっていたとか、もしくは何か当初予算は否決しなければいけないと書き始めたら主観であるが、そうではなく、その一つ一つの事象について、事実を書いたと御理解いただければと思う。

【福本委員】 副議長の立場で、客観的事実と書くことはすごく重いことだと思う。事実を書いているかもしれないが、それは部分的な事実であって、そのような部分的な事実であれば、このブログの最後に、さもこれが全てですというような書き方で事実と書いてはいけない。例えば一議員の立場として書くのであれば、100歩譲って許されるかもしれないが、中立性・公平性を担保されなくてはならない副議長がこのような偏った形で読み取られる書き方をしてはいけないと思う。倫理的にかなり問題があると思う。副議長は倫理的な知見もあると思うがいかがか。私は間違ったことを言っているか。

【町田（零）副議長】 そのような意見を持つことは尊重されるべきだと思う。

【福本委員】 併せて、自民党・新政クラブの修正案の内容についていくつか挙げられている。①から④という形で記載されている。①放課後の子どもたちのスポーツ事業、これは何か、エンジョイスポーツのことか、②歌謡イベントの開催事業、③県人会の方たちを中心としたうまいもの市開催事業、④青少年の国際交流事業の4つの事業を削除あるいは減額するというものですということで、「子どもたち、県人会、青少年」、そういった気を引くワードをわざわざ織り込んで、削減した議題を挙げている。恣意的なものを感じていて、賛成討論を織り交ぜなかったり、自民党・新政クラブが提案したと決め打ちしている流れの中で、私は個人的に、副議長が一定の方向に印象を持っていこうとしていると感じるが、ほかの委員はどう思うか。

【星野委員】 私も個人的なSNSで公開質問状という形で町田零二副議長に挙げている。恣意的なものを感じている。

【福本委員】 最後とするが、町田零二副議長らしくないと思っている。中立性・公平性に大変厳しい立場の中で、こう書くのであれば、もう少し中立な書き方をしてもよかったと思う。反対討論を載せるのであれば、賛成討論についても少し触れるとか、削減した議題名にしても恣意的に言葉を加えるのではなくて、そのままの状態で挙げるとか、それが本当に副議長に求められる中立性・公平性ではないか。町田零二副議長らしくないと思い、発言させていただいた。

【山田委員長】 先ほど北島委員に関しては、議場ではっきりさせるということと、SNSの修正をしていただけたということもあった。

【井上副委員長】 先ほど北島委員が、こういう対応をすると仰っていただいたので、今回のこの問題は閉じてほしいと要望し、私の問題提起はこれで終了させていただく。

【堀口委員】 ただ、こういうことが起きた以上は、先ほど布瀬委員も言われていたとおり、議会改革実行委員会でも、やっている政治倫理の規程をどうするのかという話は、まさにこのことに直結すると思う。私たち議員は不確かな情報を誰かから聞いたからといって何も確認しないで情報発信してよいのか。それがまことしやかに、議員の発言として世の中に流れてしまうことを、もっと一人一人が気をつけるべきで、議員ということを自覚しあって気をつけていきたい。

【山田委員長】 お互いにSNSの発信等はしっかりと気をつけていくこととしたい。

事務局にこの後の流れの説明を求める。

【事務局次長】 資料3を御覧いただくと分かるが、今日この後本会議を開き、資料3の2に記載の事項を行い、休憩後に委員会を開催し、委員会が終わってから、資料3の4の部分でもう1回本会議がある。進行上のこともあり確認するが、北島議員の発言をどこで行うのか、準備があるため決めたいただきたい。

【北島委員】 本会議を休憩し、委員会が終わった後の再開後の最初に登壇させていただきたい。

【事務局次長】 承知した。議長に相談し準備させていただきたい。

【山田委員長】 ほかになければ、これで閉会する。

午前10時44分 閉会